

基 調 報 告

I 宗谷複式教育研究連盟のあゆみ

昭和23年、宗谷複式教育研究連盟の前身である宗谷単複式教育連盟が発足し、同年発足した北海道単複式教育研究連盟に加盟した。翌昭和24年には稚内の市制移行に伴い、稚内市が町村とは別に北海道単複式教育研究連盟に加盟した。

以来、紆余曲折を経ながら、稚内市と宗谷管内町村のそれぞれが豊かな実践を交流し、研究を推進してきた。

昭和58年、宗谷管内複式教育を統一する組織の再編が図られ、現在の「宗谷複式教育研究連盟」が誕生した。以降、へき地・複式・小規模校がきわめて多い宗谷の教育の充実発展に大きく寄与してきた。

北海道へき地・複式教育研究連盟との関係では、昭和46年から20数年の離脱期を経て、復帰を果たした。平成13年、「朔北の大地と海に生きる宗谷の子らに新しい時代を開く力を」のスローガンのもと、加盟校はもとより宗谷管内教育の総力をあげて、初めての第50回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会を開催した。集合学習を含む19校16会場で、研究成果を発信し、高い評価を得た。

第50回宗谷大会で得た「わかる授業づくり、学力の向上、民主的な学校づくり、連帯と共同、市町村教育の充実」という成果を『五つの財産』として、継承・発展させ、これまで宗谷管内のへき地複式教育の研究を積み上げてきた。

平成25年度は、第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会に向けて再び宗谷管内教育の総力を結集すべく、各市町村での準備期間とした。それぞれの市町村の実態にあわせ、柔軟に協力体制を整えることができた。

II 宗谷管内の現状と宗谷プレ大会の意義・位置づけ

1 宗谷管内のへき地複式教育の現状について

宗谷管内の複式校の割合は、約42%（26校／62校）である。さらに、農山漁村の過疎化と児童数の減少から極小規模化や統廃合が進んできている。人事交流によって経験豊かな人が都市部に偏る傾向があり、へき地・複式校に勤務する教職員の年齢や経験年数が低くなってきている。

ミドルリーダーが少ない宗谷管内では、若い教師が経験豊かな先輩から指導を受けながら日々の実践の課題を解決していくことが難しい面がある。宗谷管内複式教育研究大会は、若い教師の学びの場として位置づけ、運営してきた。

上記のような宗谷管内のへき地・複式校を取り巻く状況の中で、今日、保護者・地域の皆様の期待に応えるため、より充実した教育実践を進めていくことが求められている。

2 これまでの研究経過について

毎年開催してきた宗谷管内複式教育研究大会では、3つの分科会と若い先生方のための複式講座を実施してきた。特に、講座を行う前に調査部が中心となり「普段の複式授業の中で困難さを感じている事は何か」についてアンケート調査を行い、その解

明に取り組んできた。

その中で、一番大きな課題として取り上げられたのは、複式授業（「わたり」「ずらし」）の中で教師のつかない間接授業の展開方法である。間接授業は、北海道へき地・複式教育研究連盟第9次長期5か年研究推進計画の第2分野第7課題と関連しているが、子供が自分の意見を発表し、他人の意見を聞きながら問題解決に取り組むための前提としての自学自習の姿勢をどう育てるかという視点で効果的に研究を深めてきた。

自分の力で問題解決に取り組むことによって、学習内容の理解が深まり、さらに次の学習に向けての意欲が生まれるだろうと仮説を立て、研究を推進してきた。そして、少子化により一人学級が増え、学び合いができないことから効果的な指導方法について研究を進めてきたところである。

3 宗谷大会の位置づけと意義について

さて、宗谷管内では、平成27年度に14年ぶりに「第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会」が、そして、平成26年度は、宗谷大会の準備として宗谷プレ大会が実施されることとなった。へき地複式教育の研究大会として、日本で最も歴史あるこの大会を、宗谷管内で開催する事は光栄の極みである。

私たちはこの大会を、全道各地から多くのへき地複式教員が集まる最大の学びの場であると位置づけるとともに、宗谷の特色を全道に発信する最高の機会だととらえ、「オール宗谷」の合言葉のもと、教育関係団体の力を結集して成功させていきたい。

4 平成26年度プレ大会への期待

平成13年大会では、管内10市町村19校16会場で授業公開を行い、大きな成果をおさめることができた。今回の宗谷プレ大会では、近年の学校統廃合があり、8市町村9会場での開催となり規模は縮小している。

全道的に複式校の減少により加盟校が10校を切る管内が増えている中で、26校の加盟校を有する宗谷複式教育研究連盟は、全道で4番目に大きな複式研究組織であることから、宗谷管内での全道へき地複式教育研究大会の開催には大きな期待が集まっている。

宗谷管内では、宗谷管内教育研究連携会議を中心として大きな教育連携の動きが興り、平成24年度、平成25年度と宗谷管内教育研究大会を成功させることができた。平成27年度の全道へき地複式教育研究大会宗谷大会は、宗谷管内教育研究大会としても位置づけられており、加盟校のみならず管内全ての教職員の学びの場としての期待が高まっている。

宗谷プレ大会は、先輩諸氏が心血を注いで、守り育ててきた北海道のへき地・複式教育の歴史と伝統を確かに継承し、第9次の研究主題「主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを切り拓く子供の育成」の実践と検証の場とするとともに、今後の北海道のへき地・複式教育のあるべき姿について、宗谷管内および北海道の仲間とともに学びあう有意義な機会となることを期待する。

5 平成26年度プレ大会がめざす新たな「五つの財産」づくりについて

第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会は、北海道へき地複式教育研究連盟第9次長期5か年研究推進計画の初年度にあたる。本大会では、第9次長期5か年計画を踏まえるとともに、平成13年大会で残した「五つの財産」を継承しながら今日的な課題に応えるよう、新たな「五つの財産」づくりを宗谷プレ大会でめざすものとして提案する。

宗谷プレ大会でめざす「五つの財産」づくり

1 オール宗谷で学びの場をつくる大会に

稚内市、枝幸町、猿払村以外の5つの分科会は町内に複式校が1、2校しかない。よって、加盟校のみで分科会を運営することは不可能であり、市町村教育研究会その他の関連団体や、単式校の先生方の力を借りなければならない。管内の97%の学校は複式ではないにしてもへき地校であることから、へき地複式教育研究大会は、非加盟校の先生方にとっても大きな学びの場となるはずである。

2 全道に宗谷の教育を発信する大会に

宗谷には、「子育て運動」「幼保小中高連携」等の教育運動や様々なすぐれた教育実践があるが、それらを広く発信する場が少ないのが実情である。だが、これからの宗谷の教育を高めていくためには、宗谷の教育を積極的に外に向かって発信していくことが大切であり、宗谷大会はその貴重な機会である。

3 子どもの現実から出発し子どもに返す大会に

研究のための研究であってはならない。宗谷の教育の伝統は、子ども達の現実、そして子ども達が暮らす家庭や地域の現実にしっかりと向き合い、力合わせをしながら、子ども達を伸ばしていこうとするものである。子どもの現実から出発した研究を充実させることによって、子ども達に返していく研究大会にしなければならない。

4 創意工夫による低コストの大会に

加盟校数、会員数の減少は、財政の逼迫を意味している。昨今の経済状況においては、自治体から補助を受けることは大変厳しいものがある。我々の貴重な学びの場を維持し継続していくためには、創意工夫により低コストの大会にしていかなければならない。

5 ICTの活用で時間と空間の壁を越える大会に

加盟校数の減少は近隣校との距離が遠くなることを意味している。例えば、離島である利尻・礼文からは、仮に1時間の会議に参加するにも丸一日の日程となり、枝幸の南端から稚内市までは150km以上の道のりがあるといったことである。しかし、ICTを活用すればインターネットを通じて瞬時に情報共有ができることから、ICTの活用による新たな教育研究連携のあり方を模索する大会にしたいと考える。

Ⅲ 宗谷複式教育研究連盟の研究

1 活動方針

(1) へき地・複式校のもつ「へき地」「小規模」「複式形態」の特性を生かした宗谷

ならではの複式教育の充実をめざして研究活動を推進する。

- (2) 北海道へき地・複式教育研究連盟の第9次長期5か年研究推進計画の管内的な推進に向けて、全道へき地複式教育研究大会などとのつながりの強化に努める。
- (3) 各市町村複式教育研究会などと連携を図り、宗谷複式教育研究連盟の研究推進と充実を図る。

2 活動内容

- (1) 全道へき地複式教育研究大会宗谷プレ大会の推進
- (2) 全道へき地複式教育研究大会への参加と管内環流
- (3) 教師力向上をめざした宗谷管内複式教育研究大会の推進

3 研究計画

(1) 研究主題

宗谷の風土に生きる創造性豊かなたくましい児童の育成
～地域性を生かし、一人一人を伸ばす小規模校教育の推進～

(2) 研究の基本構想

- ① 北海道へき地・複式教育研究連盟の第9次長期5か年研究推進計画と関連を図り、宗谷管内のへき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かし、2分野8課題による課題別研究方式を継承した研究推進に努める。

ア～学校・学級経営の深化・充実

地域の教育課題を踏まえ、家庭・地域社会と連携し、「豊かな心」を育てる
学校・学級経営の創造

イ～学習指導の深化・充実

地域に根ざした、主体的・創造的な学び合いにより「確かな学力」を育てる
学習指導の創造

- ② 「へき地・小規模・複式形態」の三特性の劣性部分を克服するため、「長期・課題別・共同」の3つの研究方式を基本にしたへき地・複式教育の推進を図る。

(3) 研究の視点

宗谷管内における小規模・複式（校）教育活動の今後の方向性
～研究内容・運動・体制の3つの側面から五つの課題

- ① 「五つの財産」づくりの視点をとらえた小規模・複式（校）における教育研究での実践が積み重ねられていくよう、研究（交流）活動を進め、さらなる成果と財産を生み出していくこと。
- ② 地域に開かれた学校研究と、その主体性を保障する研究（会）組織の運営改善を図る努力をしていくこと（惜しまないこと）。
- ③ 教育関係者・団体の賛同が得られ、保護者・地域住民に支持され、受け止められる研究会（大会）をめざしていくこと。
- ④ 研究会（大会）開催の市町村および会場校については、

- ・自主的な活動が保障されること。
- ・会員相互が荷を分かち合う体制と共同財産が生まれる方向性をめざすこと（努力すること）。

⑤ 会場市町村（校）と近隣市町村との「支援体制（努力すること）」を確立する（できる）準備を進めていくこと。

（４）研究方法

① 長期研究方式

「研究主題を統一し、組織的計画的に研究を発展・充実させようと取り組む研究方式」

組織的な研究体制を築くための抜本的な改革をめざし、「何のために」「何をめざして」進めるかという目標（課題）を持つとともに、「いつまでに」「どのようなことを」「どのようにして」達成するかという長期的な展望に立った研究・実践の手順を示してきた。

内容・方法 （第9次長期5か年研究推進計画）

前期3年間	第8次長計までの研究の成果と課題を整理し、さらなる充実・発展を図るとともに、教育の動向を踏まえつつ、各学校の研究と整合性を図りながら研究計画を立て、実践し、検証していく。
後期2年間	前期3年間の成果と課題を整理し、典型化・定型化に努め、研究・実践の一層の充実と発展を図る。

② 課題別方式

「統一された研究主題に基づき、2分野8課題の解明・解決に向けて組織的に取り組む研究方式」

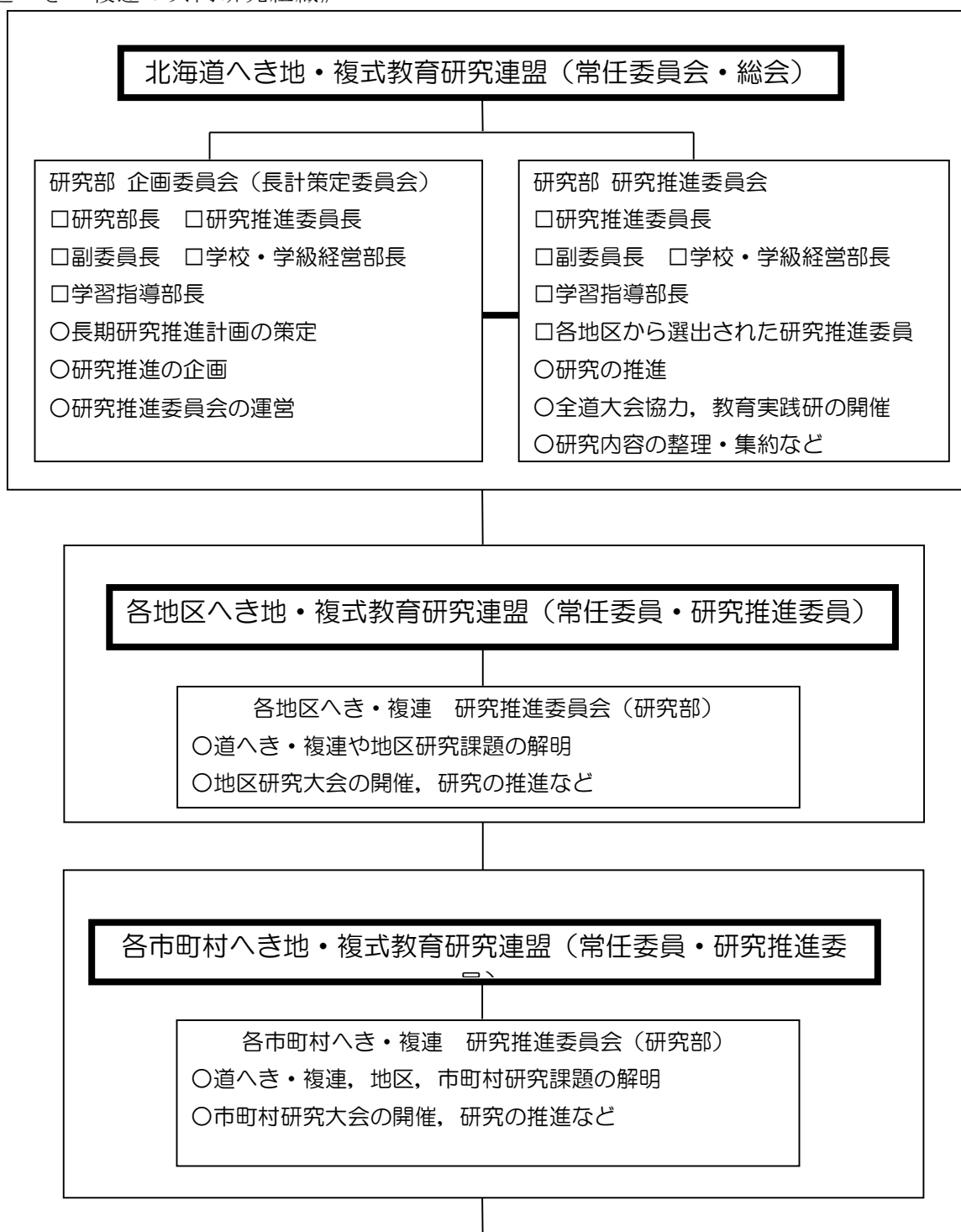
へき地・複式・小規模校では、三特性の劣性部分を克服するための課題に直面していることを踏まえ、課題解決・解明のため学校・学級経営の深化・充実と学習指導の深化・充実に関する分野別目標を掲げ、それら2分野をそれぞれ4つの課題に分類し、課題解明・解決のための具体的方策と研究内容を示した。

学校・学級経営	①学校や地域の実態を踏まえた教育計画の立案 ②合同学習や集合学習など、教師の協業化や学校間交流 ③家庭や地域社会との連携
学習指導	①学年別指導、同内容指導など指導計画や指導方法の工夫 ②地域の自然環境・社会環境をプラスに生かした学習内容や学習指導過程の改善

③ 共同研究方式

「共同化・協業化による組織的・計画的に取り組む研究方式」

《道へき・複連の共同研究組織》



各へき地・複式・小規模校の研究部
○道へき・複連，地区，市町村研究課題の解明
○自校研究課題の解明
○公開研究会の開催，校内研究会の推進など

IV 宗谷プレ大会の研究推進

1 北海道へき地・複式教育研究連盟第9次長期5か年研究推進計画との関連

これまで宗谷複式教育研究連盟の研究は、北海道へき地・複式教育研究連盟の研究推進計画に基づいて進められてきた。

昨年までは、北海道へき地・複式教育研究連盟第8次長期5か年研究推進計画に基づいた2分野8課題との関連を図りながら、各学校がそれぞれに研究主題を設定して課題究明にあたってきたところである。

第9次長期5か年研究推進計画の初年度となる今年度は、今までの研究の成果と課題を整理し、さらなる充実と発展を図るために、学校や地域の特性を踏まえ、地域に根ざした魅力ある教育活動を推進していかなければならない。

2 研究主題

「主体的・創造的に学び、豊かな心で

たくましくふるさとを切り拓く子供の育成」

～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒一人一人に未来に

「生きる力」をはぐくむ学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

3 スローガン

最北の風薫る宗谷の海と大地に生き

未来を担う子らに 豊かな心と確かな学びを！

4 研究内容

平成25年度に、宗谷複式教育研究連盟で第8次長期5か年研究推進計画の実施状況を調査した。

80%以上の学校で実践をしている項目を見ると、学校・学級経営の進化・充実での実践が多いことがわかる。学校・学級経営の深化・充実（第1分野）の第1課題では「3特性を踏まえた学校経営計画」「地域素材や地域人材の活用」、第2課題では「地域素材やALT、地域人材の活用」「食育」、第3課題では「道徳の年間指導計画」「心のノートの活用」である。

学習指導の進化・充実（第2分野）の第5課題では「基礎・基本の定着」である。学力向上に向けた取組を実践していることと関連している。

約半数の学校で研究として実施している項目は、第1分野第4課題の「教師力の向上をめざす校内研修」である。年齢が若く、経験年数が少ない教師が宗谷管内には多いことと関連がある。第2分野第5課題では、「基礎的・基本的な内容の定着と個性を生かした指導計画・実践」、第6課題では「課題意識をもって主体的に学習に取り組む学習指導過程」「教科の特性に応じた問題解決的な学習の指導過程」、第7課題では「へき地・複式教育の特性を生かした指導方法」「学習効果を高める

個別化・集団化などの指導方法」である。わたりやずらしを工夫した指導過程を研究し、意欲をもって課題に取り組む子供を育て、学力向上に向けた取組を研究していることがわかる。

第9次長期5か年研究推進計画の初年度となる平成26年度は、第8次長期5か年研究推進計画までの研究の成果と課題を整理し、教育の動向を踏まえつつ、2分野8課題のさらなる充実と発展を図る。宗谷プレ大会を通して成果と課題を明らかにして、各学校の研究と整合性を図りながら平成27年度全道へき地複式教育研究大会宗谷大会に向けて研究計画を立て、実践し、検証を進めていく。